

8-1(1). 図形の配置-1 (例: 電気設備シンボル)

ここでは電気設備シンボルを例として図形の配置方法を見ていきましょう。

関連工種の業者間で共有する図面へ作図する場合は、まず既存データの作図状況を大まかに把握しておきましょう。

図形(シンボル)を配置する図面を読み込みます。

この表示からも「グループ1」と「グループF」に線・文字データが含まれているのが確認できます。

1. レイヤグループの作図状況を確認します。書込みレイヤグループ番号上(ここでは1番です。)でマウス右ボタンをクリックします。

この画面は「(1-3)ツールバーを格納する」で設定した画面構成に、ツールバー「レイヤグループ」を格納しています。

レイヤグループの操作や確認を行いやすくと同時に作図の邪魔にならないようこの位置に格納しました。各自、使いやすいよう配置してみてください。

💡 レイヤの使用状況は基本となる図を作図された方の整理方法によって違います。また、他のCADの中には「レイヤグループ」という概念がないものもあります。JWW形式へ変換後は、まず使用されていないレイヤグループの有無を確認してみてください。

3-1. 「グループ1」に建築図データ

4. レイヤグループ一覧ウインドウが表示されます。

3-2. 「グループF」に図面枠データ

レイヤグループ名設定

番号上をマウス左ボタンクリックすることで左図のように「レイヤグループ名設定」ウインドウが表示され、任意の名前を付けることができます。

2. 左図のように「レイヤグループ一覧」ウインドウが表示されます。

3. この図では「グループ1」に建築図データ、「グループF」に図面枠が作図されているのが確認できます。

4. 確認できたら、このボタンを押して「レイヤグループ一覧」ウインドウを閉じます。ボタンの形状は各PCの設定によってまちまちですので気にしないで下さい。(3つのボタンのうち一番右です。)

…次項へ続きます。

💡 レイヤ・レイヤグループの表示・操作方法は1-5(4),6-1で説明しています。